

はじめに

宮城学院女子大学キリスト教文化研究所共同研究「多民族社会における宗教と文化」は、2017年度の活動として、下記の通り計4回の公開研究会およびワークショップを開催した。それぞれの研究会では、学外から気鋭の研究者をお招きするとともに、発表テーマに興味を持つ学部生が、本学のみならず他大学からも参加するなど、多彩なメンバーが集まって議論が展開された。今年度は、学部生や一般の参加者から積極的な意見を募るワークショップや、複数のコメンテーターを設定しての事例報告会など、研究会の開催形式にもバラエティがみられた。

10月27日 公開研究会

「フィリピンにルーツを持つ子どもたちの困難：日本の学校で学ぶ子どもたちに焦点を当てて」

矢元貴美（宮城学院女子大学および大阪大学非常勤講師）

2017年12月16日 公開ワークショップ

「学生の主体性と協同性をひきだす授業デザイン」

今中舞衣子（大阪産業大学准教授/フランス語教育学会幹事長）

2018年1月26日 公開研究会「被災と死をめぐる人類学的考察」

「3.11を『学ぶ』とは：福島県内の短期大学におけるPBLの事例から」

田中大介（東京大学）

「津波の後で、“終わり”の手前で：津波被災地の老人たちとともに考える」

木村周平（筑波大学）

2017年1月31日 公開研究会

「タイにおけるダイビング産業の展開」

小河久志（常葉大学）

市野澤潤平（宮城学院女子大学）

これらのうち10月27日および1月31日の公開研究会については、そこでの報告内容を発表者が改めて論文として書き下ろし、また12月16日の公開ワークショップについては、本学の間瀬幸江准教授が関連する論考を執筆し、それぞれ今号に掲載する運びとなった。執筆するには多くのご苦勞をかけることとなったが、今年度も無事に『多民族における宗教と文化』を発行できることを、感謝したい。

共同研究代表 市野澤潤平